

日英中三言語の話し手の主観性

—指示詞の主観性と総称名詞の一人称化—

李 瑞芳

1 話し手による指示詞の主観性

日本語の指示詞は「コソア」の三種類であるに対して、英語は here(this), there(that)の二種類であり、中国語は「这 zhe, 那 na」の二種類である。「コソア」の定義は話し手を中心としたものである。話し手を中心にし、話し手の近くにあるものは「コ」であり、話し手からやや離れたところにあるものは「ソ」で、話し手から離れたところのあるものは「ア」である。英語や中国語の指示詞の定義も、話し手を中心としたものである。話し手の近くにあるものは、英語では here(this)で、中国語では「这 zhe」である。話し手から離れたところにあるものは、英語では there(that)で、中国語は「那 na」である。

三言語の指示詞の定義は、いずれも話し手を中心としたものである。話し手が指示対象の遠近を判断する。例えば、日本語の場合、指示対象が話し手の近くにあるのか、それともやや離れたところにあるのか、それとも離れたところにあるのかは、話し手の主観的な判断によるものである。堀口(1978b)によれば、「コソアの領域は、常に話し手の主観によって設定されるもの」であるという。それを次のような例文で説明している。

(1) A : あの花は桜だね。

B : いや、あれは桃だよ。

しかし、Bの応答が場合によっては、

B : いや、それは桃だよ。

或いは、

B : いや、これは桃だよ。

と逆らった応答をすることもありうるという。

(2)

日本語の指示詞の領域だけではなく、英語の *this/that* の領域も、話し手の主観によって設定されるものである。この事実を Fillmore(1997: 14-15)は、指示詞の持つ距離の遠近の対立が「中和される (*neutralized*)」という言い方をしている。その一例として、患者が痛む歯を歯医者に示しながら、(2a)の言い方も、(2b)の言い方もできるという。

(2) a. It's this one.

b. It's that one.

また、千葉・村杉(1987: 114)によれば、今話題になっている物の話し手からの距離の違いが問題にならない場合、距離の違いに応じて *this/that* を使い分けるということが必要なくなるのである。例えば、話し手が、もし示されたものを手で触れながら、質問する場合、次の(3a)も(3b)も適格であるという。

(3) a. Would you like this one?

b. Would you like that one?

(1-3)の例文は、同じ指示対象に対して、それぞれ近くの対象と見なす文も適格であれば、遠い対象と見なす文も適格である。いわば、「距離の遠近の対立が中和される」或いは「距離の違いが問題にならない」文である。このような文は、話し手による主観的な操作の結果である。話し手にはどのような場合、「距離の違いが問題にならない」のであろう。次の(4-6)は千葉・村杉(1987: 116)による映画からの例文である。見てみよう。

(4) (100万ドルの値打ちのある Saracen horse (宝石をちりばめた彫刻の馬)を
ごみの中から見つけて、それを手にした警官が)

Well, look at that!

「ああ、すげえなあ、こりゃあ！」

(McCloud: *The Million Dollar Round Up*)

(5) (渡された写真を手にしながら)

“Where did you get that?”

「どこでこれを？」

(Kojak: *Black Thorn*)

例文(4)では、警官が自分の手の中にある「宝石をちりばめた彫刻の馬」を *that*

で指している。話し手の警官にとって「彫刻の馬」は、手の中にあるので、近くのものであるに違いない。それにもかかわらず、thisではなく、thatを用いられている。例文(5)も、話し手の手の中にある写真をthisではなく、thatで指している。同じようなことが、場所を示すthereについても見られる。

(6) (契約書のサインすべき箇所を指差しながら)

Sign there, and there.

「ここと……ここですね。」

(Hawaii Five-0: *Why Wait Till Uncle Kevin Dies?*)

例文(2b), (3b), (4-6)はいずれも話し手に近い指示対象をthatで指示している例である。筆者は、それが「距離の違いが問題にならない」ではなく、話し手の主観的な領域の操作によるものであると考える。話し手は自分の領域にある対象を領域外のものとして取り扱い、遠ざかる気持を表す。遠ざかることで、指示対象と話し手自身が心理的な対立状態を作る。話し手が自分の領域にthatを用いることによって、嫌悪或いは忌避の気持を表す効果があるという説明は、Lyons(1981:235)にも見られる。日本語訳は千葉・村杉(1987)によるものである。

For example, if a speaker is holding something in the hand he will normally use 'this', rather than 'that', to refer to it (by virtue of its spatio-temporal proximity). If he says *What's that?* in such circumstances, his use of 'that' will be indicative of his dislike or aversion: he will be distancing himself emotionally or attitudinally from whatever he is referring to.

(たとえば、もし話し手が何かを手を持っているなら、その物を指すのに通常は(それが空間的・時間的に近距離にあるため)thatでなく、thisを用いる。もし、そのような場面で、“What's that?”と言ったとすると、その場合のthatは話し手の持つ嫌悪あるいは忌避の気持を表すことになるだろう。すなわち、話し手は自分が指示しているものから気持の上であるいは態度の上で距離を置こうとしていることになるだろう。)

話し手は自分の領域の対象と意図的に距離を置くことによって、指示対象と対立する気持を表現する。その対立する気持は、場合によっては嫌悪や忌避となる。中国語の「这 zhe/那 na」の領域も、話し手の主観によって設定されるものである。次のような発話の状況を設定しよう。例えば、話し手が聞き手に近

(4)

い距離にいる。聞き手が持っているはずの食券の所在を確認する場面である。次の(7a)の「那 na」も、(7b)の「这 zhe」も適格である。

- (7) a. 饭票 不是 都在 你 那儿 么?
食券 ではない 全部 あなたの そこ か
→食券は全部あなたが持っているんでしょう?
- b. 饭票 不是 都在 你 这儿 么?
食券 ではない 全部 あなたの ここ か
→食券は全部あなたが持っているんでしょう?

もちろん、二つの文の知的意味は同じではあるが、微妙にニュアンスが違うのである。(7a)の場合、木村(1992)の言い方を借りれば、話し手が突き放した感情を伴って聞き手側の対象を捉える文である。そのため、至近距離であっても「那 na」が用いられる。一方、(7b)の場合、話し手が聞き手側の対象を取り込む場合であり、一体感があると言える。次の例文は、「这 zhe/那 na」が同時に用いられた場合である。

- (8) 有 你 这么 开玩笑的 么, 你 那是 开玩笑
么?
あり あなた このように 冗談を言う か あなた それは 冗談を言
う か
→このように冗談を言う人がいるか?それは冗談のつもりか?

ここでは、「冗談がきついよ」という不満の気持ちを表している。聞き手の言っている内容、つまり、聞き手側の対象に文の前半で「这 zhe」が用いられ、後半では「那 na」が用いられている。

ここまで見たように、三言語は話し手の意図的操作により、領域内の対象を領域外の対象として取り扱うことができる。それは「距離の違いが問題にならない」ではなく、近くにある対象を遠い対象のように取り扱っているのである。このような現象は指示詞の用法だけに現れるのではなく、総称名詞の一人称化においても見られるのである。2節を見よう。

2 話し手による総称名詞の一人称化

1節で見たように、英語では話し手の領域の指示対象を this ではなく、that

で指し示す場合がある。それによって話し手は、指示対象と自分の間に心理的な対立状態を作り、自分の様々な感情を表すことができる。話し手による心理的な対立状態を作るような興味深い現象は、日本語の「ひと」という言葉の使い方にも表れている。ただ、指示詞 that のように、指示対象と自分の間の心理的な対立状態ではなく、「ひと」では、聞き手と話し手の心理的な対立状態を作るのである。このような「ひと」の用法を詳しく説明したのは鈴木(2000)である。

2.1 総称名詞「ひと」の一人称化

- (1) ひとは誰でも死ぬ。(人間一般を言う総称的な用法。)
- (2) 世間には色々なひとがいる。(人は個別化され、一人一人の人間が強調される用法。)
- (3) おひとよし(個人の持つ人柄や個性)
- (4) ひとのことは構うな。(自分以外の人間、つまり他人を言う用法。)
- (5) うちのひと(他者であるが、自分と特定の関係にあるもの)
- (6) ひとの口がうるさい。(自分以外の人すべてを総称する用法、つまり世間、世の中。)
- (7) ひと様に顔向けができない。(社会の規範そのもの)
- (8) あなた、よくもひとを騙したわね。(話者自分自身、私、僕、おれなど)

現代日本語には、「ひと」という言葉の色々な使い方があり、例えば、例文(1)のように、人間一般を言う総称的な用法が普通である。また、鈴木(2000)によれば、例文(1-7)のような「ひと」の使い方は、「どれが最も基本的で、どれが派生的かを明らかにすることは、必ずしも容易ではないが、それでも相互の意味の関連は、無理なく説明できる自然なもの」という。ところが、例文(8)に見られるような「ひと」の用法は、これまで見てきたものとは正に正反対であり、基本的には対立するものである。というのは、例文(8)のような「ひと」は、自分以外の他者や、人間一般ではなく、話者自身だけのことを言っているからである。例文(8)のような場合の「ひと」は、「私」「僕」「おれ」といった自称詞の役割を果たしているのである。次の(9)の例文は、鈴木(2000)からの引用であるが、いずれも(8)と同じ用法であるという。いずれも一人称として使われている。

- (9) ひとをからかう/ひとをばかにする/ひとをかつぐ/ひとを楽しむ/ひとを

(6)

おだてる

ひとを困らす/ひとに世話をやかす/ひとに心配させる/ひとがせっかく〜
ひとを悪者にする/ひとを犬ころにする/ひと(のこ)をコだって
ひとの(楽しみ)邪魔をする/ひとの部屋に入る/ひとの家を勝手にのぞく
ひとの鼻先に立つ/ひとの痛いところを突く/ひとの顔、ジロジロみて
ひとの話をいいかげんにきく/ひとが話しているのに
ひとが楽しんでるのに/ひとが困っているのがおかしいが

鈴木によれば、いずれも話し手が相手の言葉や態度に不快の念や反発、或いは怒りを感じ、相手を咎め非難する調子で言われているという。もともと、「ひと」は話し手も聞き手も含む総称的な概念である。ところが、話し手の意図的な距離の置き方によって、話し手自身のことを指す。話し手も聞き手も含まれている領域から、話し手自身しか含まれない領域となる。聞き手と距離を置くことによって、聞き手と対立状態を作り、聞き手を非難する気持を表す。ある意味で、「ひと」を客観化することで、聞き手と一線を引く態度を見せつけていると言えよう。このように、話し手によって、聞き手と距離を置く、或いは、指示対象を客観化することは、「ひと」の使い方だけではない。ほかの名詞の使い方にも見られる。次の例を見よう。

- (10) a. 今年は終戦から 60 年という節目の年にあたります。終戦当時 20 歳だった若者が今年 80 歳ということになります。戦争を知る人たちが年々、少なくなる中、「語り継ぐ」をテーマにお送りしていきます。
- b. 1992 年？今、サラッと書いたけど、もう 13 年も前だ。僕はまだ 19 だった。あの当時、ペイブメント好きだった若者が起業して社名を「ペイブメント」にしたとしても何も不思議ではない。あれからもう 13 年も経ったのだ。
- (11) a. 当時子供だった少年少女も父母に！中には既にお孫さんがいる人だっているかもしれません。
- b. 私の記憶では、最初のタイトルでミイラが夜の街をさまよい歩くシーンでしたが、バックの曲と共に当時小学生だった少年にたつぷりと恐怖感を味あわせてくれたものでした。白黒画面でしたけど、私の怖いもの見たさの怪奇映画ファンになるきっかけとなった作品でしたね
- (12) a. 社会部の記者にとって大切な仕事の 하나가、夜回りという取材です。
- b. この冬とった 1 週間ほどの休暇にワンピースやハガレンを借りまくった記者にとっても、この優待は真剣に魅力的です。5 本 1000 円キャンペー

ンも半額で 500 円になるっていうならかなりヤバイです。

(10-12)の「若者」、「少年」、「記者」は、a グループが普通の総称名詞の用法であり、b グループは話し手自身を指す、つまり一人称の用法である。このように、「ひと」、「若者」、「少年」、「記者」などのような総称名詞は、話し手の意図的な操作により、一人称として用いられる。その一人称として用いられる文は、様々な表現効果がある。「ひと」の一人称化は、聞き手に不快の念や反発、非難などを表す効果がある。また、「若者」、「少年」、「記者」の一人称化は、話し手の主観的な事情を聞き手に客観的な印象を与える効果がある。聞き手に非難を表すのも、聞き手に客観的な印象を与えるのも、話し手に意図的な操作によるものである。話し手自身も総称に含まれているが、総称の中の自分をあえて強調している。あえて自分の領域を強調しているとも言える。その強調により、聞き手や総称のほかのものの領域と一線を引くことになる。このような現象は、英語にも中国語にも現れる。2.2 と 2.3 節で見てみよう。

2.2 総称名詞 a man の一人称化

日本語の「ひと」と同じように、a man も総称名詞である。総称名詞 a man は個人、或いは三人称として使われることもあれば、話し手自分自身を指して、一人称として使われることもある。まず、総称名詞としての用法を見よう。

(13) We can't judge a man by his appearance.

(人はみかけによらない者だな。)

Kin-nosuke Natsume, *Botchan (Master Darling)*

(坊っちゃん / 夏目漱石 著 / Yasotaro Morri 訳)

(14) He was good at everything a man can do; he could plough, and build houses, and make ships.

(人のやることならなんでも上手で、耕すことも、家を建てることも、船を作ることもできた。)

(Andrew Lang, *Tales of Troy: Ulysses the Sacker of Cities*)

次の例文(15)は個人を指す用例である。a man は総称名詞ではなく、僕たちの一人一人を指している。(16)は三人称としての用例であり、a man はフォッグ氏に近づこうとしているフィックス氏を指している。

(15) Not a man among us moved.

(8)

(僕たちのうち誰一人として、身動きをしなかった。)

(Robert Louis Stevenson, *Treasure Island*)

(16) At this moment a man who had been observing him attentively approached.

It was Fix, who, bowing, addressed Mr. Fogg:

(そのとき、フォッグ氏を見つめていた男が丁寧な感じで近づいてきた。その男、フィックスは、おじぎをして、フォッグ氏に話しかけた。)

(Jules Verne, *Around the World in Eight Days*)

次は話し手の Dr. Druring が a man で自分自身の事を指している。a man は話し手の意図によって、一人称として使われている。

(17) Dr. Druring and his wife sat in the library. The scientist was in rare good humor. "I have just obtained, by exchange with another collector," he said, "a splendid specimen of the Ophiophagus."

"And what may that be?" the lady inquired with a somewhat languid interest.

"Why, bless my soul, what profound ignorance! My dear, a man who ascertains after marriage that his wife does not know Greek, is entitled to a divorce. The Ophiophagus is a snake which eats other snakes."

(ドラーリング博士夫妻が書齋に座っていた。博士は珍しく上機嫌だった。

「ちょうど手に入れたんだ、別のコレクションと交換にね」と、彼は言った。

「Ophiophagus のみごとな標本だよ」

「それって何ですか?」と、夫人は尋ねたが、熱意ある態度とは言いがたかった。

「なんだって、なんて恐るべき無知さ加減なんだろう! ねえおまえ、ギリシヤ語を知らない妻を娶った男は離婚に踏み切る資格があるんだよ。Ophiophagus とは蛇を食う蛇という意味だ」)

(Ambrose Bierce, *The Man and the Snake*)

例文(17)において、話し手が a man で自分自身のことを指すことで、どのような効果が生まれたかを考えよう。話し手の Dr. Druring は、「おまえはギリシヤ語を知らないから、私はおまえの主人として、離婚する資格があるよ」という意味を伝えたい。しかし、このように話したら、あまりにも自分の主観的な意見となる。a man を使うことによって、事態を客観化することができる。「私

の主観的な判断だけではなく、誰でもがおまえのような妻と離婚する資格がある」ということを含意する。自分の不満を客観的な事実として相手に伝える。さらに、a man だけではなく、ほかの総称名詞にも類似する用法がある。つまり、総称名詞で自分自身のことを指すことができる。

(18) a. A five-year-old is not a baby, and therefore could have caused a fire, hurt themselves.

b. My first hint that there was a city that existed at the same time as my own life came to me from the very first film I was taken to see: *Three Coins in the Fountain*. Why my parents chose this as my first film, rather than some wholesome children's picture... is a question I can't answer. *Three Coins in the Fountain* was not an entirely appropriate film to take a five-year-old to see. (Mary Gordon "Rome: The Visible City" :67)

(19) a. Japan is a beautiful country, but why (don't people) lend a helping hand to a person who has fallen on the street?

b. For the first time I read a book about the Vietnam War. For a person who didn't know the fact, the contents of the book were very shocking.

(18b と 19b の例文は Koichi Nishida (2002 : 267/278) からの引用)

(20) a. A skilled reporter will ask the tough questions and often use some techniques to keep you talking.

b. As a skilled reporter, I was able to confirm these whispers through my reliable connections at the Tim Horton's ⁽¹⁾ outside of the library.

日本語訳は次である。

(18) a. 五歳の子供は、もう赤ちゃんではないので、火事を起こすことがあるし、怪我をする可能性もある。

b. 私が生活していた頃と同じ時期に、存在していた町があったという最初の暗示は、私が見に連れていかれた最初の映画から来ている：それは、愛の泉⁽²⁾という映画である。健全な子供向けの映画ではなく、この映画を私が見る最初の映画として両親が選んだのはなぜか、という問いに私は答えることができない。愛の泉は、五歳の子供を見に連れていくには、必ずしもふさわしくない映画だった。

(10)

- (19) a. 日本は美しい国なのに、なぜ道に倒れている人に手を貸そうとしないのか。
b. 私は初めてベトナム戦争の本を読んだ。事実を知らなかった者⁽³⁾にとっては、衝撃的な内容だった。
- (20) a. ベテラン記者は、いつも厄介な質問をし、ある種のテクニックを使って、あなたに話しを続けさせるだろう。
b. ベテラン記者として、私は、図書館のそばにあるティムホートンズの信頼できるコネを通じて、これらのうわさを確かめることができる。

上の a five-year-old, a person, a skilled reporter の用法において、a グループは総称名詞の普通の用法であり、b グループは話し手自身を指す一人称の用法である。

2.3 総称名詞「人家 renjia」の一人称化

日本語や英語と同じように、中国語においても総称名詞の一人称化が見られる。例えば、日本語の「ひと」と似たような意味の単語「人家 renjia」がそうである。

- (21) 人家 是 人家， 我 是 我。
ひと は ひと 私 は 私
→ひとはひと、私は私。

例えば、子供が親に「普通の人のように」行動をしなさい、言いなさいとか言われたりする。上のような返事をすることで、自分が人と同じようなことをしなければならない発想への反発を表す。ここでの「人家 renjia」は、総称名詞の用法である。次の例文(22)も総称名詞の用法である。

- (22) 人家 咋着， 咱 咋着。
ひと どのようにする 私たちも そのようにする
→ひとのやり方を見て、私たちもその通りにする。

それ以外に、複数系を表し、「家族」の意味もある。

- (23) 多 好的 人家!
 どんなに 素敵な ひとひと
 →どんなに素敵な家族だろう。

さらに、三人称の用法もある。

- (24) 你们 瞧 人家, 多 聪明。
 あなたたち 見る ひと どんなに 賢い
 →あなたたち、その人を見てごらん下さい。どんなに賢いことだろうか。
- (25) 唉, 人家 不要。
 ふうとため息をつく ひと いらぬ
 →ふうとため息をついて言った。「そのひとは)いらぬって」

見てきたように、「人家 renjia」の用法は、日本語の「ひと」と類似している。「人家 renjia」も、人間一般を言う総称名詞であるが、派生的な用法も様々である。人間一般を指す普通の用法と正反対な用法、つまり話し手自身のことを表す一人称化の用法もある。次の例文を見よう。

- (26) 人家 和你 说 正经的 呢。
 私 と あなた 言う 真面目な話 (感嘆詞)
 →ひとは真面目な話をしているのに。
- (27) 人家 好心好意, 真 不知好歹。
 私 好意 ほんとうに よしあしを知らない
 →ひとの好意を無にして、ほんとうによしあしを知らないんだから。
- (28) 你 放开 我 吧, 人家 要 赶不上车 了。
 あなた 放して 私 (感嘆詞) 私 will 間に合わない (語気詞)
 →放して。(私)が電車に間に合わなくなるよ。
- (29) 人家 不想 喝 了呀。
 私 したくない 飲む (語気詞)
 →(私)はもう飲みたくない(と言っているのに)

(26-29)の例文は自分以外の他者や、人間一般ではなく、話者自身のことを言っているのである。「私」のような自称詞の役割を果たしているのである。「人家 renjia」が一人称として用いられる場合、日本語の「ひと」と同じように、

話し手が相手の言葉や態度に不快の念や反発、或いは怒りを感じ、相手を咎め非難する調子である。しかし、「ひと」と微妙に違うところも少しある。それは、話し手が自分のわがままをいうこともできることである。例えば、(29)においては次のような場面が考えられる。彼が飲み物を彼女に勧めているが、彼女はもうそれ以上飲めない。彼女が断るにもかかわらず、なお進める。半分きれて半分わがまま、自分の気持を強く言う。このわがままを言うのも、結果として、相手に不満や不快の気持を表すことにつながっている。

「人家 renjia」はもともと総称的な概念であり、基本的なところは「ひと」と同じようなことが言える。話し手の意図的な距離の置き方によって、話し手自身のことを指すことができる。それによって、聞き手を非難する気持を表すことができる。ある意味で、「人家 renjia」を客観化することで、聞き手と一線を引く態度を見せつけているとも言える。総称名詞で自分自身の事を指す、つまり自分自身という指示対象を客観化することは、「人家 renjia」以外にも見られる。確認しよう。

- (30) a. 今天我不表演，主要看年轻人的。
 b. 因为我知道，对于一个刚刚开始他的职业生涯的年轻人来说，能够有幸在像你这样的人的指挥下从事工作，真的非常有价值。
- (31) a. 埃及最后一任国王法鲁克在 1936 年登基，当时他只是一个 16 岁的少年。
 b. 这对于当时我——一个刚上高中又长久住在小胡同里的少年，无异于是一处广阔的自由天地。
- (32) a. 如果有人问我，对于一个记者来说什么作重要，那么我要说是良心。
 b. 记者对新加坡可谓向往已久，并非因为它是一个美丽的花园城市，而是因为听说这个城市从来不堵车。对于一个从事汽车和交通道路的记者来说，这样的诱惑实在太大。

日本語訳は次のようになる。

- (30) a. 今日は、私は出ないよ。若者の演技を見に来たの。
 b. 私には分かっています。(私みたいな)仕事を始めたばかりの若者にとって、あなたのような方の指導のもとで仕事ができることは、どれだけ価値のあることか。
- (31) a. エジプト最後の国王ファルークは、1936 年に即位した。当時の彼は 16 歳の少年にすぎなかった。
 b. これは当時の私——高校生になったばかりで、長い間、胡同（中国

庶民の伝統的な住居)に住んでいた少年——にとっては、広大な自由な天地に来たと感じたに違いない。

- (32) a. 記者にとって最も大切なことは何だと聞かれたら、私は良心だと答えるだろう。
- b. 記者 (の私) はシンガポールにずっと憧れていた。美しい花園のような都市であるだけでなく、渋滞しない都市でもあるから。自動車と交通の報道に従事する記者 (の私) にとって、この上ない魅力があると言えよう。

上の「年青人」、「少年」、「記者」の用法において、a グループは総称名詞の普通の用法であり、b グループは話し手自身を指す、一人称の用法である。

日本語の「ひと」、「若者」、「少年」、「記者」にせよ、英語の a man, a five-year-old, a person, a skilled reporter にせよ、中国語の「人家 renjia」、「年青人」、「少年」、「記者」にせよ、総称名詞である。それにもかかわらず、話し手の意図的な操作により、一人称として用いられることがある。その一人称の用法は文の表現に様々な効果が生まれる。主な効果は、聞き手への非難の気持ちなどを表したり、話し手自身を客観化したりすることである。日英中それぞれ四つずつ総称名詞を挙げて考察してきたが、ほかの総称名詞も類似するような用法があると思われる。

3 まとめに

本稿は話し手の主観性を中心に、日英中三言語の指示詞と総称名詞を考察した。話し手が距離の遠近を判断して、近くの対象に近称の指示詞を用い、遠い対象に遠称を用いるのは普通である。しかし、話し手の近く、或いは話し手の領域にある対象を近称で指示するのではなく、遠称で指示する場合もある。本稿は英語の例 this/that を多用したが、このような現象は三言語ともに現れている。いずれも話し手による意図的な操作である。話し手は自分の近くにある対象を意図的に遠称の指示詞(that)を用い、指示対象と対立的な状態を作り、指示対象と話し手自身の間に距離を置く。それにより話し手の様々の気持、例えば嫌悪或いは忌避を表す。

総称名詞の一人称化も、話し手の意図的な操作である。話し手と聞き手を含む総称名詞が、話し手自身(一人称)を表すのである。日英中の総称名詞はそれぞれ「ひと」、a man、「人家 renjia」をはじめ、数多くある。一人称化により、話し手は自分自身と聞き手の間に距離を置き、聞き手と対立的な状態を作り、聞き手への非難の気持ちを表したり、話し手自身を客観化したりすることができる。

注

- (1) Tim Horton's とはカナダ版スターバックス、カナダでは有名なカフェのチェーン店である。
- (2) 背を向けて願をかけコインを放ると望みが叶うと言われるローマのテレビの泉を一躍有名にした、50年代ハリウッドお得意の観光映画。監督はそもそも画家で、美術出身のJ・ネグレスコ。その画面設計には定評がある。お話はごく可愛らしく、ローマで働くことになった三人の米国娘（ピーターズ、マクガイア、マクナマラ）が共同生活を始め、それぞれの職場で芽生えたロマンスの道のりを軽いタッチで綴る。泉の前で三組の男女が結ばれるハッピーエンドまでには一波乱あるが、その辺り、実にツボを押さえた演出が心地良く、F・シナトラの主題歌ともども酔わせてくれる。同監督により「マドリードで乾杯」として後にリメイク。
- (3) Koichi Nishida (2002)によると、話し手自らが主人公で、話し手がその自己を客体化して記述する一人称の文体では、自己の記述に「者(もの)」を使い、「人(ひと)」は使うことができないという。

参考文献

- 木村英樹(1992)「中国語指示詞の遠近対立について」『中国語と日本語の対照研究 論文集(上)』181-211. 東京：くろしお出版。
- 金水敏・田窪行則(1992)『指示詞』東京：ひつじ書房。
- 鈴木孝夫(2000)『教養としての言語学 鈴木孝夫著作集6』岩波書店。
- 千葉修司・村杉恵子(1987)「指示詞についての日英語の比較」『津田塾大学紀要』19.
- 堀口和吉(1978b)「指示語の表現性」『指示詞』ひつじ書房
- Fillmore, Charles J. (1997) *Lectures on Deixis*. California: CSLI Publications.
- Koichi Nishida (2002) On “Reflexive indefinites in English and Japanese” *English Linguistics Volume19, Number2*, Tokyo: Kaitakusha.
- [り ずいほう 大阪市立大学文学研究科言語情報学後期課程修了]